

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	3
2.	調査設計	3
3.	調査項目	3
4.	回収結果	4
5.	報告書の見方	4
6.	標本誤差	5
II	回答者の属性	7
III	調査結果	15
1.	定住意向	17
(1)	八王子市に住んで良かったと思うか	17
(2)	八王子の魅力を紹介した経験	21
(3)	定住意向	25
(4)	住み続けたい理由	29
(5)	市外へ移りたい理由	33
(6)	生活環境の評価	37
2.	市政情報の入手方法と効果的な発信について	44
(1)	市政情報の入手方法	44
(2)	市政情報のわかりやすさ	45
(3)	「広報はちおうじ」の利用状況	48
(4)	「広報はちおうじ」の満足度	49
(5)	「広報はちおうじ」で不満を感じるコーナー	50
(6)	「広報はちおうじ」に不満を感じる理由	51
(7)	「広報はちおうじ」で関心のある情報や載せてほしい情報	52
(8)	「広報はちおうじ」に関する意見（自由意見）	53
(9)	市が情報を発信する上で、充実すべき手法	54
(10)	市の情報発信に関する意見（自由意見）	55

3. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度	56
（1）窓口サービスの満足度	56
（2）健康のために心がけていること	59
（3）1年間の運動頻度	63
（4）かかりつけの医療機関の有無	67
（5）1年間に取り組んだ生涯学習活動	70
（6）生涯学習で身につけた知識や技能、経験の活用方法	74
（7）食料の備蓄の有無	78
（8）食料の備蓄量	81
（9）食料を備蓄していない理由	84
（10）飲料水の備蓄の有無	88
（11）飲料水の備蓄量	91
（12）飲料水を備蓄していない理由	95
（13）隣近所とのつきあい方	99
（14）地域と子どもたちとのかかわりあい	102
（15）地域と学校の協力による子どもたちの育み	105
（16）市などの支援による子育ての状況	108
（17）安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）	111
（18）市民協働の進捗状況	112
（19）大学等のまちづくりへの活用	115
（20）1年間の大学等の利用状況	116
（21）ふさわしいと思う大学等の地域への貢献の仕方	117
（22）1年間の文化芸術活動への参加頻度	118
（23）1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況	121
（24）障害のある方への理解や配慮	125
（25）誰もが安全で快適に暮らせるまち	128
（26）市内の交通渋滞緩和	131
（27）公共交通の利便性の満足度	134
（28）都市の美観が保持されたまち	137
（29）自然、歴史、文化が生かされた景観	140
（30）市内の産業活動	143
（31）市内の農産物の購入	146
（32）地球環境への配慮	149
（33）生ごみのたい肥化の有無	152
（34）市の生活環境	156
（35）「生物多様性」の周知度	159

(36) ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度	162
(37) ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度	166
(38) 市の相談体制の満足度	173
 4. 市政への要望	176
(1) 重点施策要望	176
(2) 行財政運営	181
 IV 調査票.....	185

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満18歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間：平成28年5月18日～5月31日
- (6) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出法
 - ・ 層 化…「八王子ビジョン2022」で示された6地域（下の地域区分図参照）・14管内の調査対象人口に応じて調査数を比例配分。
 - ・ 対象者抽出…14管内別に単純無作為抽出。

【本調査における地域区分】

中央地域：本庁管内
西部地域：元八王子・恩方・川口
西南部地域：浅川・横山・館
北部地域：加住・石川
東南部地域：由井・北野
東部地域：由木・由木東・南大沢



- (7) 調査機関：株式会社タイム・エージェント

3. 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 市政情報の入手方法と効果的な発信について
- (3) 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度
- (4) 市政への要望

4. 回収結果

対象者数 : 5,000人

有効回収数 : 2,792票 (有効回収率55.8%)

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率は、n(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべての件数(n)を合計しても、全体の件数(n)と一致しない場合がある。また、クロス集計の分析項目は、性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別・職業別としている。
- (6) 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1~40.9%	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9%

また、クロス軸の分類や質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。

<例>「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を統合して《そう思う》。

- (7) 本年の調査から調査対象を満20歳以上から満18歳以上に拡大したことから、前年との経年比較を行う設問については、単純集計結果に18歳及び19歳の回答者を除いた結果を【参考】として併記するとともに、経年比較はその数値を用いて行った。

6. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（ n ）、および回答比率（ P ）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

例えば、ある設問の回答者数が2,792で、その設問の「良い」の回答比率が20%である場合、標本誤差は20%を中心に±1.51%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は18.49%～21.51%の間であるとみることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

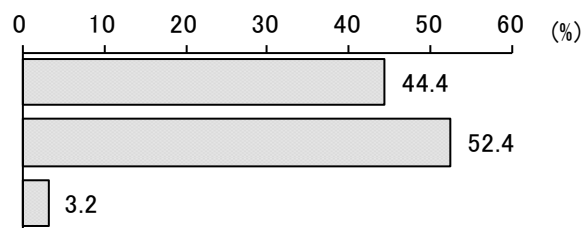
回答比率（ P ） 基数（ n ）	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,792	± 0.82	± 1.14	± 1.51	± 1.73	± 1.85	± 1.89
2,500	± 0.87	± 1.20	± 1.60	± 1.83	± 1.96	± 2.00
2,000	± 0.97	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
1,500	± 1.13	± 1.55	± 2.07	± 2.37	± 2.53	± 2.58
1,000	± 1.38	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
500	± 1.95	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

Ⅱ 回答者の属性

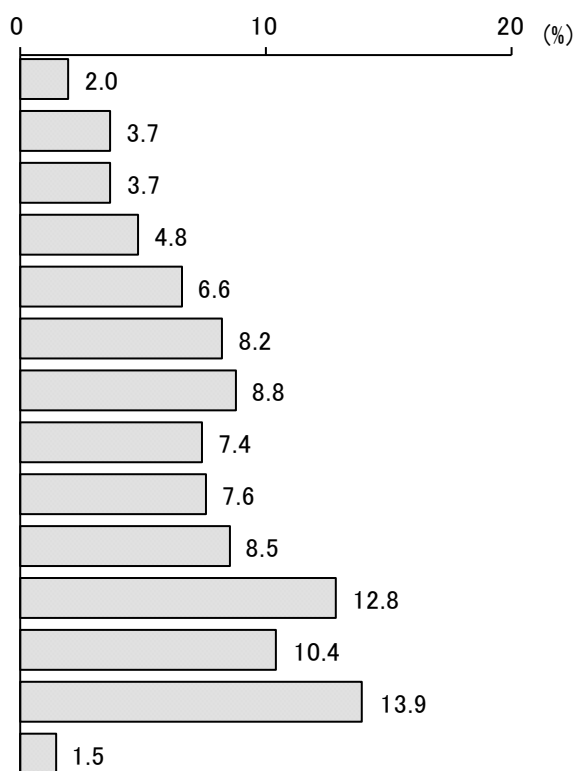
1. 性別

	基数(人)	構成比(%)
男性	1,239	44.4
女性	1,463	52.4
無回答	90	3.2
合計	2,792	100.0



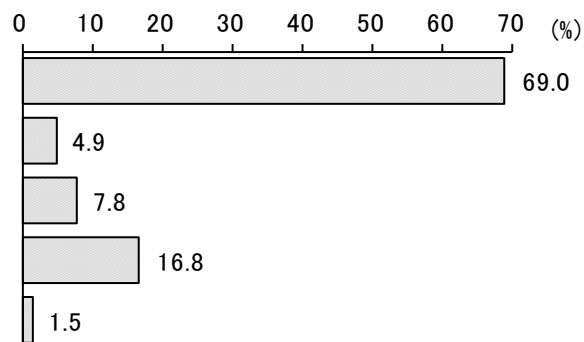
2. 年齢

	基数(人)	構成比(%)
18～19歳	56	2.0
20～24歳	103	3.7
25～29歳	104	3.7
30～34歳	135	4.8
35～39歳	184	6.6
40～44歳	230	8.2
45～49歳	245	8.8
50～54歳	207	7.4
55～59歳	211	7.6
60～64歳	238	8.5
65～69歳	358	12.8
70～74歳	291	10.4
75歳以上	389	13.9
無回答	41	1.5
合計	2,792	100.0

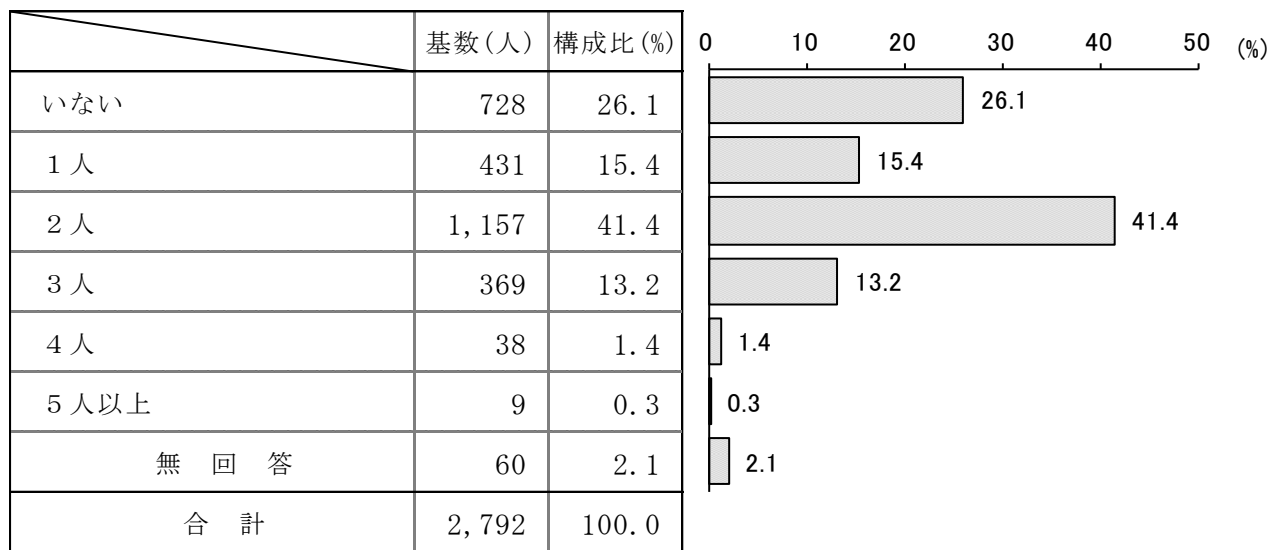


3. 配偶者の有無

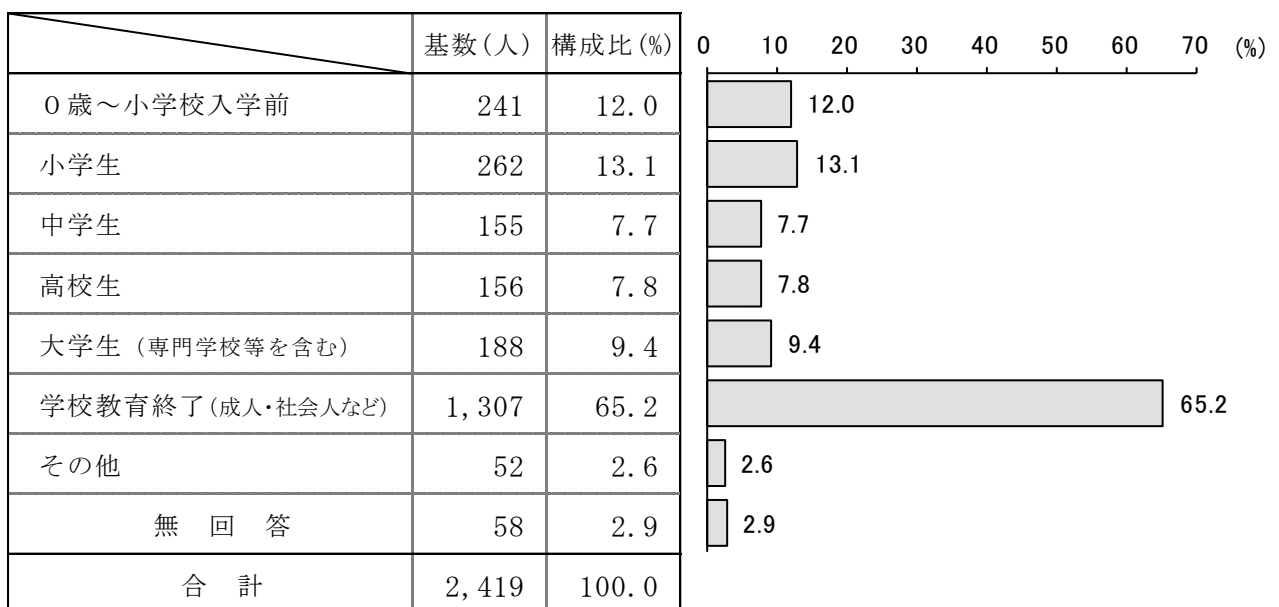
	基数(人)	構成比(%)
いる	1,927	69.0
いない(離別)	136	4.9
いない(死別)	218	7.8
結婚したことはない(未婚)	470	16.8
無回答	41	1.5
合計	2,792	100.0



4. 子どもの人数

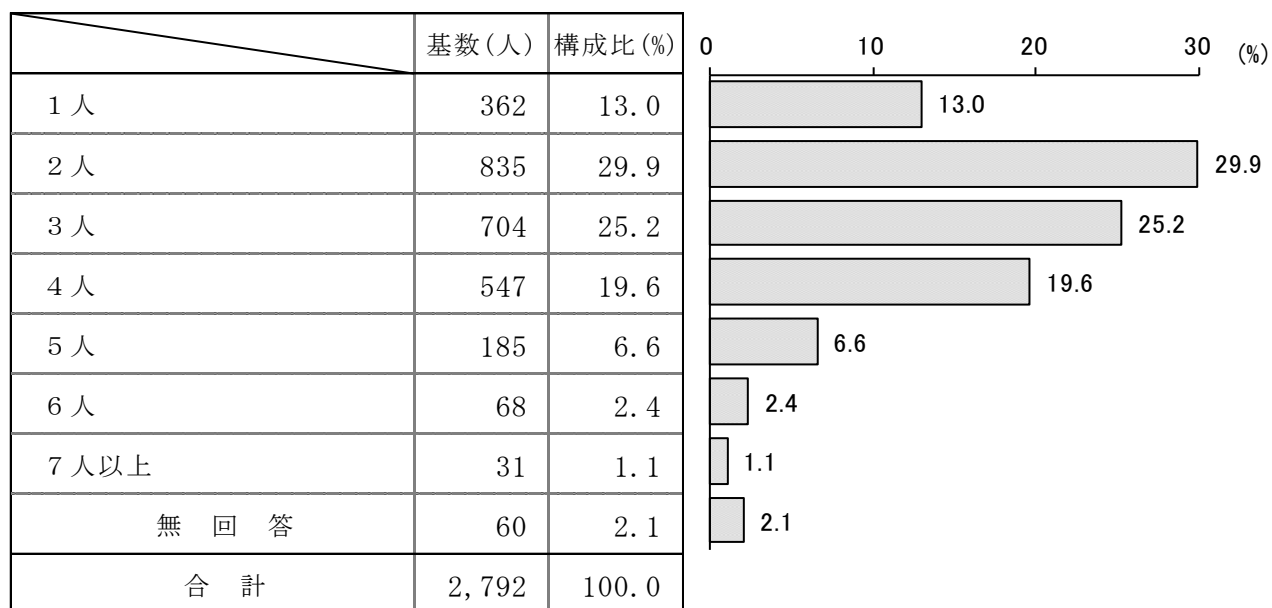


4-1. 子どもの成長段階（複数回答）

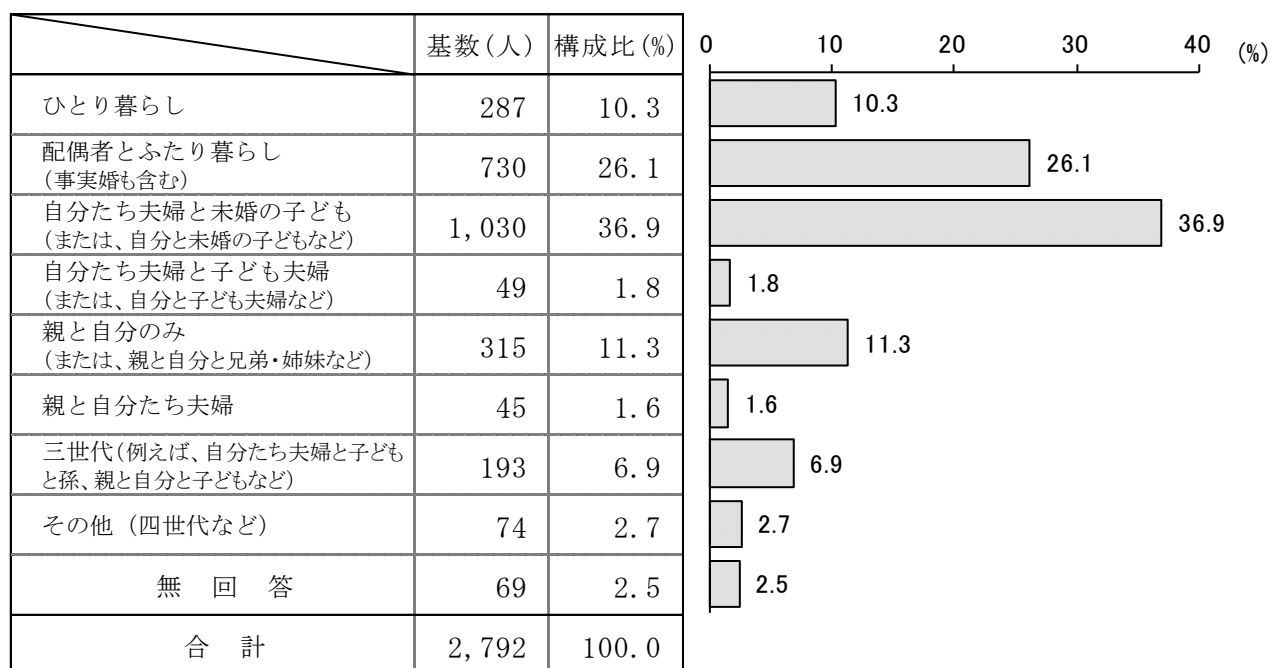


※複数回答につき合計は2,419であるが、回答者数2,004人を基数として構成比を算出した。

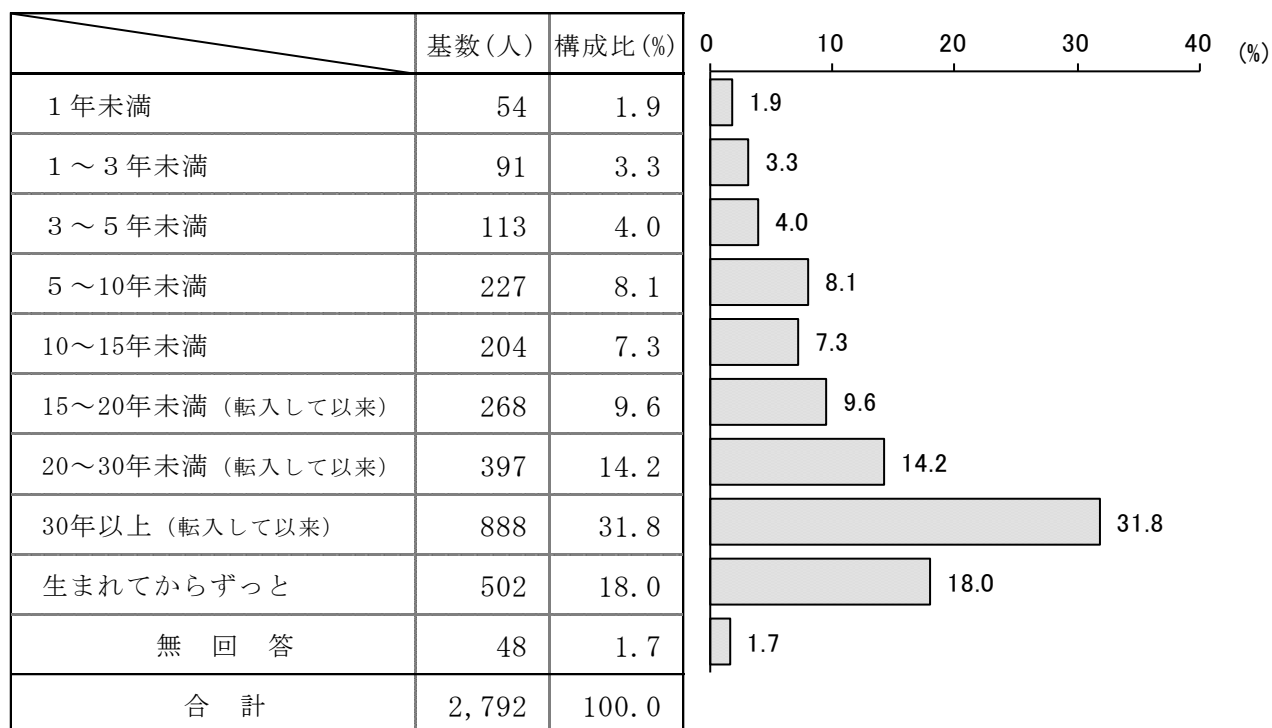
5. 同居人数



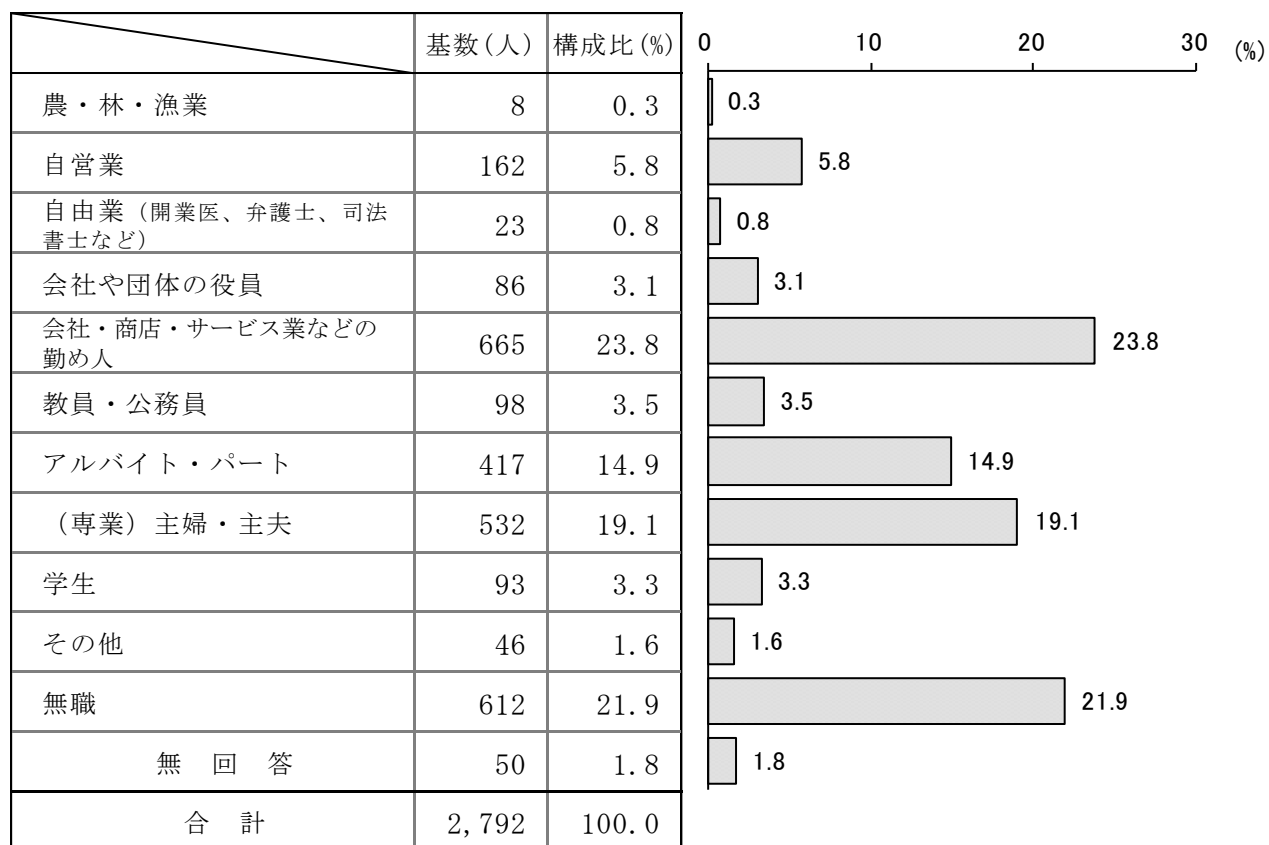
6. 世帯構成



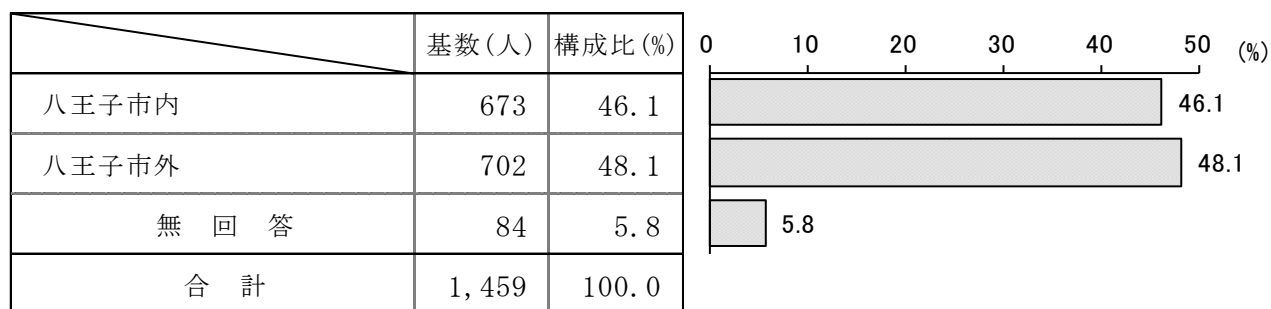
7. 居住年数



8. 職業

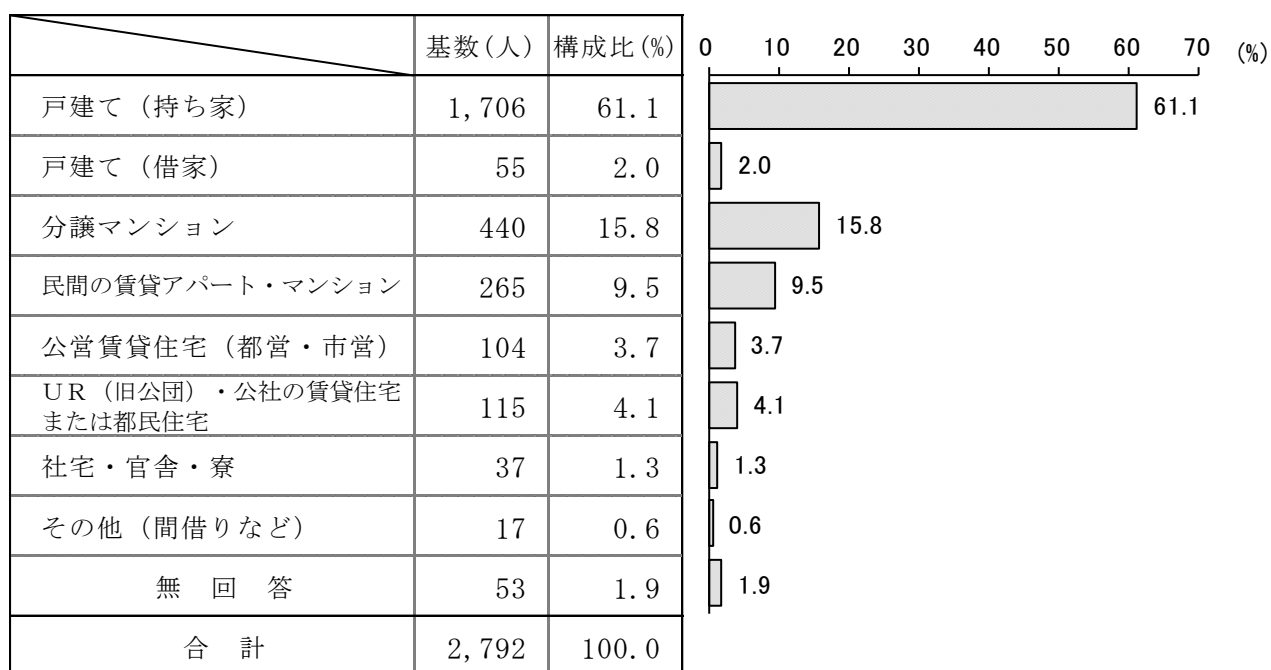


8-1. 仕事場

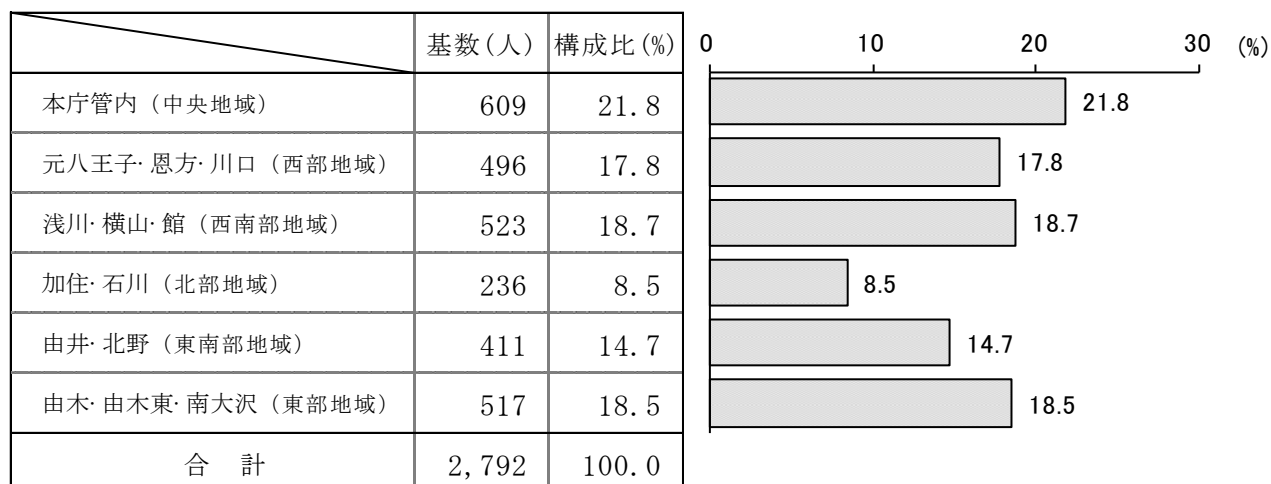


※職業の回答者のうち、(専業)主婦・主夫、学生、その他、無職、無回答を除いた方に対する質問。

9. 居住形態

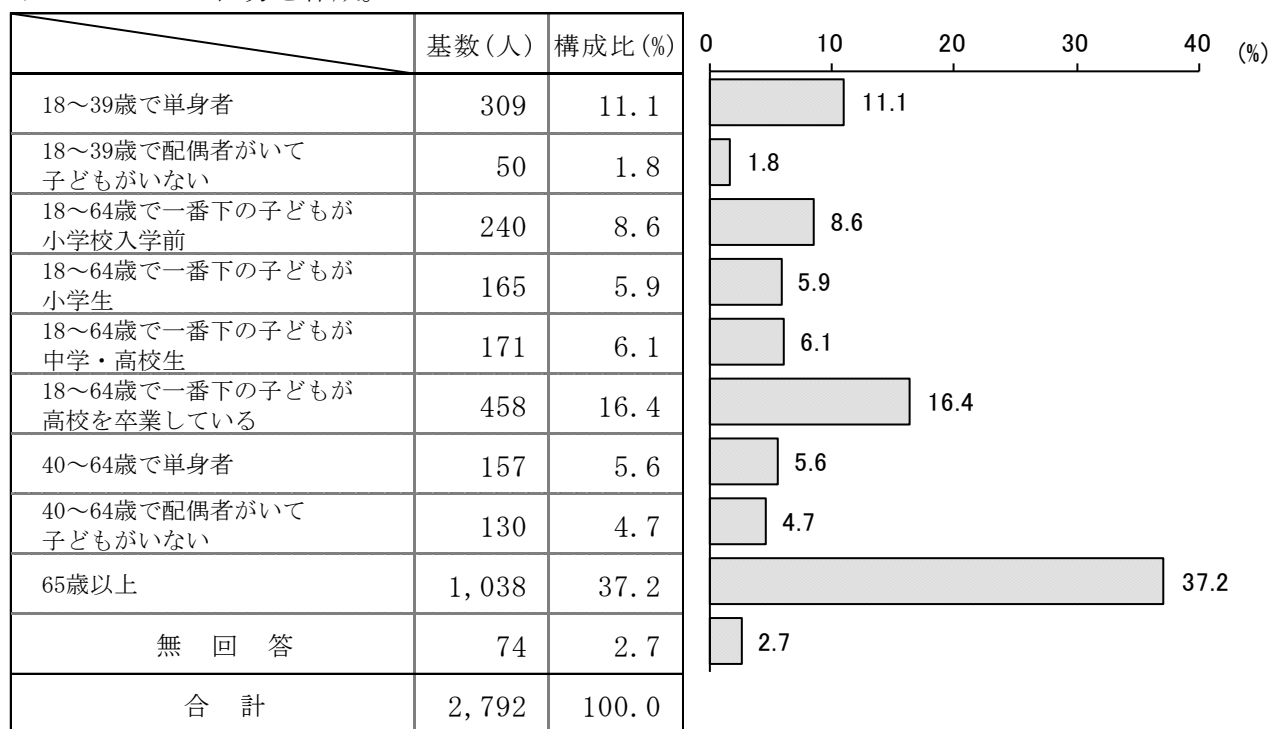


10. 居住地域

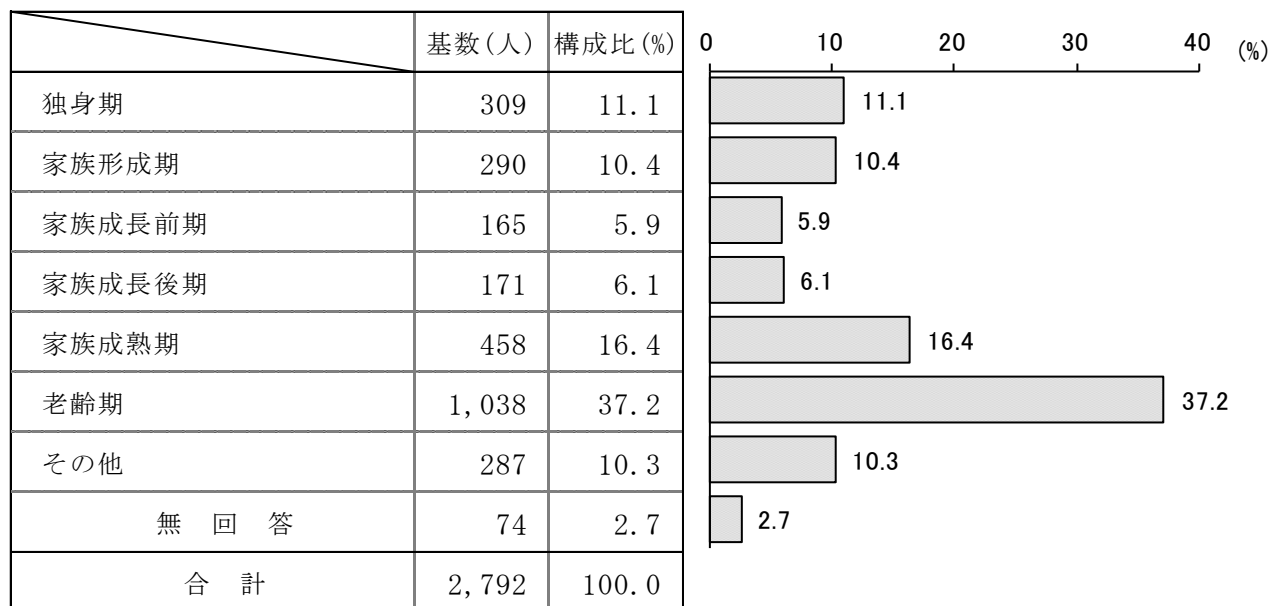


11. ライフステージ

「2. 年齢」「3. 配偶者の有無」「4. 子どもの人数」「4-1. 子どもの成長段階」により、ライフステージの区分を作成。



■ ライフステージ（集約型）



■ ライフステージ区分

独 身 期	18～39歳で単身者
家 族 形 成 期	18～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、18～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家 族 成 長 前 期	18～64歳で一番下の子どもが小学生
家 族 成 長 後 期	18～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家 族 成 熟 期	18～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老 齢 期	65歳以上
そ の 他	40～64歳で単身者または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない